

# 平成30年度 第1回横浜市創造界限形成推進委員会

## 次 第

日時：平成30年7月11日（水）

10時30分～12時00分

会場：YCC ヨコハマ創造都市センター  
3階スペース

- 1 平成29年度事業評価について
  - 2 次期中期計画素案について
  - 3 YCC天井脱落対策工事について
- その他

※議題1, 2は公開、議題3及びその他は非公開となります。



横浜市創造界隈形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野
◎野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
○六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
菅野 幸子	アートプランナー・リサーチャー		アート／国際交流
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流／舞台芸術

◎…委員長

○…副委員長

横浜市創造界限形成推進委員会 分科会委員名簿

旧第一銀行横浜支店事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★若林 朋子	プロジェクトコーディネーター/プランナー		企業支援と芸術

日本郵船横浜海岸通倉庫事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

旧関東財務局横浜財務事務所事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
重松 久恵	ブランド・マネジмент・コンサルタント		創造産業
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
★恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター 劇場部		公立文化施設

象の鼻テラス事業評価分科会

◎ 菅野 幸子	アートプランナー・リサーチャー		アート/国際交流
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント

初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点事業評価分科会

◎ 日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

文化芸術創造発信拠点事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
菅野 幸子	アートプランナー・リサーチャー		アート/国際交流
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

◎…議長

★事業評価及び運営団体選考分科会に参加する委員以外の有識者

総合評価

■ 評価

- ・市との協定及び事業計画に定める事業をしっかり実施したうえで、黒字を出しているということは評価できる。また、累積赤字も解消されているということは、協定期間内で収支計画が的確だったと言える。
- ・BankART Studio NYK で活動したアーティスト・クリエイターが育っており、市に定着しているということは大変大きな成果だと考えられる。さらにそのアーティスト・クリエイターが結果を残し、国内外で評価されているということも評価できる。
- ・地域への展開は今までの課題であったが、29年度の「BankART Life V～観光」での取組は、BankART1929 が実施することで、最低限のコストで質を担保しながら、地域へ展開していると評価できる。
- ・運営期間の最終年度において、韓国の財団との協定を締結し、AIRに力を入れたことは、BankART Studio NYK の運営終了後も、市と韓国のつながりを継続させるきっかけとなるものであるとともに、多様なAIRの成果を見せてくれていると評価できる。

■ 課題

- ・カフェ事業については、もう少し利益を考えていくべき。昨今のトレンドを見ても、カフェ・ショップは収入事業として重要である。適正に設備投資をする、カフェ事業に強いアーティストや企業と手を組むなどの工夫ができるのではないか。
- ・創造界限拠点の連携は、十分ではなかったと感じるので、市と情報共有しながら、横のつながりを意識した事業展開が望まれる。

■ 市が取り組むべき事項

- ・BankART Studio NYK の活動の総括、創造界限拠点を中心とした創造都市施策の振り返りを、市民に分かりやすい手段で発信していくべき。イベントごとの広報も重要だが、事後広報も必要。情報の伝え方は工夫し、今までの蓄積がわかるようなものにしたほうがよい。(例：市民向けのわかりやすいリーフレットを作成する、市で活動するアーティストや関係者のインタビューのネット配信等) BankART Studio NYK がなくなった今、情報発信をうまくやらなければ、創造都市施策の終了と受け取られかねない。
- ・広報や、事業の発展を意識すると、拠点と市の間組織がないことが問題である。それを担う可能性のある財団は、現在拠点との繋がりが浅く、それを深めていく工夫、財団と拠点を結びつけることが今後重要になる。

## 平成 29 年度事業評価

施設名：初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点施設

分科会名：初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点（黄金町エリアマネジメントセンター）事業評価分科会

### 総合評価

#### ■ 評価

- ・Tinys Yokohama Hinodecho の開設は、NPO のこれまでの取組実績によるところが大きい。また、この成果によりスタッフの意識や組織力が向上していることがうかがえ、その点は高く評価できる。今後は本実績についての効果的な PR 等により、民間投資をさらに誘導していけると良い。
- ・屋外、特に川沿いの作品展示やアートクルーズは、市民の関心を集める良い事業であり評価できる。

#### ■ 課題

- ・アーティストの出口（育成・ステップアップ）について戦略を持ってプロモーション活動を行うことが望まれる。
- ・川を活用した事業を今後も継続するなど、イベントを単発で終わりにせず、恒常化に向けてさらなる事業展開を図ることを期待する。
- ・卒業したアーティストや取組の成果を可視化するなど、様々な機会をとらえて情報発信することが望まれる。

#### ■ 市が取り組むべき事項

- ・CWW 事業の実績をもとに、公共空間の積極的活用に向けた検討をしていくことが望まれる。
- ・アーティストの作品を展示・販売できる機会・場所の提供がさらに図られると良い。

## 平成 29 年度事業評価

施設名：YCC ヨコハマ創造都市センター

分科会名：旧第一銀行横浜支店(YCC ヨコハマ創造都市センター)事業評価及び運営団体選考分科会

### 総合評価

#### ■ 評価

- ・運営 3 年目として取り組んできたことが形になってきている。特にオリジナル企画で新たな事業に取り組んだ点が評価できる。
- ・Google AdWords 等、NPO 向けの無償広告枠を獲得した他、SNS 等、費用がかからない広報を多用する等、工夫がみられる点が評価できる。
- ・カフェ顧客と展示鑑賞者など異なる幅広い客層にリーチできており、賑わいが継続して創出されている点が評価できる。
- ・各事業の実績を定量的に可視化する努力がみられる点が評価できる。

#### ■ 課題

- ・自主財源で自主事業を実施する現在のスキームにおいて、収入見込みが立てづらい現状では、企画の立て方に戦略を持つことが必要。例えば前年度に事業計画を立てる際には、確実に実施する本企画と、実際の収入状況に応じて企画内容等を決めていく仮企画に分けるなど、柔軟な対応ができると良い。
- ・NPO 法人の会計基準に準じた財務諸表の作成が求められる。
- ・当初目標として設定した来館者数 15 万人を目指し、既存事業を子供向けに展開したり、YCC の取組成果を積極的に PR するなど、より一層の取組の推進が求められる。
- ・自主事業の企画・運営に際し、売上にもつなげるような工夫ができると良い。

#### ■ 市が取り組むべき事項

- ・NPO 運営や決算手続き等に係る情報を拠点に提供できると良い。
- ・今後、ラグビーや東京 2020 大会等、各種イベントと YCC 運営の連携策や方向性を、観光の視点なども入れながら検討し、示すことが望まれる。

平成 29 年度事業評価

施設名：象の鼻テラス

分科会名：象の鼻テラス事業評価分科会

総合評価

■ 評価

- ・無料休憩所の運営と文化観光交流拠点の運営の両立という難しいミッションのもと、総合的に質、量ともにレベルの高いプログラムを実施している。
- ・事業者の努力により、運営における人員体制は改善されてきている。
- ・フューチャースケーププロジェクトは、これからの象の鼻テラスにとって重要なプロジェクトなので、市とワコールとの両輪で進めてほしい。市民との話し合いもキックオフイベントの1回だけでなく、続けていけるとよい。また、その成果も公開するなどして、なるべく多くの市民と共有できると良い。

■ 課題

- ・事業者の自己評価とあわせて、アンケート等を通じて市民が象の鼻テラスをどう評価しているかを把握し、事業評価を行っていく必要がある。アンケートは、今後の事業展開のためのマーケティングにもなりうるので、取り入れられると良い。
- ・ポートジャーニーについては、他事業との連携や国内のネットワークとのつながりが出てくるとよい。
- ・創造性のクオリティを考えたプログラムが欲しい。今あるプロジェクトを深掘りし、象の鼻テラスならではの開港の地という場所性・歴史性を取り入れた、インパクトのあるプログラムを展開してほしい。
- ・市民が、第三者的に受け身に体験するだけでなく、創造的活動に参加・体験してもらう仕掛けが必要なので、その視点を事業に取り入れてもらいたい。

■ 市が取り組むべき事項

- ・施設のキャパが足りないという話が出ていたが、市内の施設や団体と連携することで補うなど検討したらどうか。
- ・各創造界限拠点でそれぞれ海外と交流事業をしているので、うまく連携して広げていけると良い。

## 平成 29 年度事業評価

施設名：急な坂スタジオ

分科会名：旧老松会館(急な坂スタジオ)事業評価及び運営団体選考分科会

### 総合評価

#### ■ 評価

- ・稼働率も安定しており、稽古場として着実な運営ができているとともに、スタッフにアーティストなどを起用することにより、利用者目線での運営を実現している。また、アーティストの不定期な働き方や産休・育休等、ワークライフバランスにも配慮していることが評価できる。
- ・10周年記念サイト「急な坂フルコース」はシンプルで見やすく、アーカイブとしても機能しており、急な坂スタジオの今までの活動を発信する良い取組だった。
- ・日本舞踊家による小学生向けワークショップを実施するなど、これまで以上にクリエイティブ・チルドレンに資する事業に精力的に取り組んでいる点は評価できる。
- ・アーティストへの会場提供及びサポートを行う「坂あがり相談室 plus」、座談会形式のワークショップ「ダンスダンギ」など、次世代育成に重点を置いた事業も、継続して実施していることが評価できる。
- ・国際交流基金シドニーとの共同事業として、ショーケース公演をシドニーで開催するなど、カンパニーという枠にとらわれない国際的な交流を継続するとともに、TPAM では急な坂スタジオを会場として「Steep Slope showcase」を上演し、国内外の観客に新たな鑑賞体験を提供していた。また、拠点連携事業「Creative Waterway」のプログラムとして象の鼻パークで上演した「シルエット」では普段舞台芸術に触れることのない客層にアプローチしており、【横浜発】を広く国内外に輩出するとともに、「急な坂スタジオをより地域に開く」という課題の改善につながっている。

#### ■ 課題

- ・28年度に利用料の未収が発生したことを踏まえ、利用料の一部を前納してもらうなど、今後、未収を防ぐ改善策を考えなければならない。
- ・今後の「急な坂スタジオをより地域に開く」取組の一つとして、一般によく行なわれるワークショップよりも、アーティストが常駐しているという急な坂スタジオの特性を活かし、ものづくりを通して地域へアプローチするような企画を期待する。

#### ■ 市が取り組むべき事項

- ・急な坂スタジオだけではなく、市が拠点ごとの特性と役割、実績をまとめ、各拠点が全体として創造都市施策のミッションを達成していることを前面に打ち出すとともに、その情報を各拠点と共有し、横の連携を今後も図っていくべき。
- ・広報・発信についても、上記を意識したやり方が必要。そのためには、横浜市が創造界限全体をまとめ、「イベントを通じた広報」、「広報ツールの活用」の双方を充実させていくべき。

総合評価

■ 評価

- ・入口としての取組は、数多く実施しており評価できる。
- ・今後さらに、活用事業者と市の協力（及び他の拠点との連携）により、アウトプットの発信・販売戦略等を協力して練り、各取組を創造産業の創出・集積という出口につなげていく必要がある。

■ 課題

- ・旧関東財務局の建築物の特性ゆえの施設への入りづらさや中の活動の見えづらさ、またオープンカフェや中庭の利用率の低さが課題である。CREATIVE SPORTS LAB や ACTIVE STYLE CLUB の活動と連携した中庭やオープンカフェ等の活用により、上記課題に対応していく必要がある。
- ・来館者数や会員数の月ごとの増減理由を分析し、PDCA を回していく必要がある。
- ・2階部分の実質的な利活用が高まるとよい。特に、入居企業・入居者の実質的な利用率、入居者と来館者のコミュニケーション機会の創出なども含めて、吸着力と交流機会創出が求められる。
- ・ビジネスマッチングやオープンイノベーションなど、CREATIVE SPORTS LAB の実質的な活動の活性化が必要である。

■ 市が取り組むべき事項

- ・オープンカフェや中庭の積極的な活用に向けて、関係区局との調整など、支援・協力をを行う。
- ・市内のクリエイターとの+Bの商品開発を実現させるため、市が必要なサポートを行う。
- ・他の拠点との効果的な広報連携ができるよう橋渡しを行う。

横浜市  
中期 4 か年計画 2018～2021

(素案)

(抜粋版)

平成 30 年 5 月  
横浜市

## 政策5

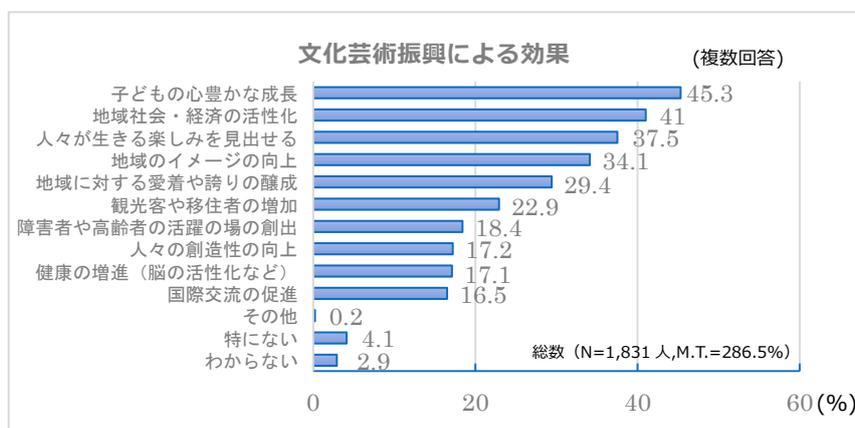
## 文化芸術創造都市による魅力・賑わいの創出

## ◆政策の目標・方向性

- ・文化芸術の風土醸成や子どもたちの育成を図るとともに、さらなる魅力・賑わいを創出し、**都市の活性化**につなげるため、**新たな文化芸術の魅力を発信する劇場の整備を検討**します。
- ・歴史的建造物等での賑わいづくりなど、**創造性をいかしたまちづくり**を進めるとともに、**文化的に豊かな市民生活の実現**に向け、文化芸術活動の基盤を整備します。また、芸術フェスティバルの開催などにより、横浜の持つ魅力を国内外へ発信し、**プレゼンスを向上**させます。
- ・文化芸術を通じた**誰もが対等な関係で関わり合える社会の実現**や、**子どもたちや新進アーティストなど次世代を担う人材を育成**します。
- ・横浜の魅力である港、街並み、歴史・文化資産等をいかし、横浜らしい景観や賑わいのある**魅力あふれる都市空間形成**を進めます。

## ◆現状と課題

- ・文化芸術は、人の心を豊かにし、創造性や感受性を育み、人々に活力を与えます。エンターテインメントから本格的な舞台芸術まで楽しめ、内外の人が繰り返し訪れる魅力ある都市を目指すには、**質の高い文化芸術に触れる場**が必要です。
- ・横浜トリエンナーレは、2001（平成13）年の第1回開催以来、最新の**現代アートの動向を提示する国際展**として定着しており、ダンス・音楽の**横浜芸術アクション事業の継続的な開催**とともに、横浜のプレゼンスを向上させ、まちの賑わいを創出しています。
- ・企業・NPO・大学等と連携しながら、アーティスト・クリエイターの創造性を身近に感じることができエリアとして、拠点を中心とした**「創造界隈」の活性化**を推進してきました。また、こうした連携を通じ、**新たなビジネス機会の創出**につなげることも期待されています。
- ・市民の文化芸術活動の拠点として、区民文化センターなどの拠点整備が進む一方で、文化施設の老朽化による大規模改修の必要性も高まっています。
- ・地域の資源となる歴史・文化的資産や公共空間等を積極的に活用することにより、まちの活性化につなげる必要があります。



資料：内閣府「平成28年文化に関する世論調査」

## ◆指標

	指標	直近の現状値	目標値 (33年度末)	所管
1	文化芸術創造都市施策の浸透度※1	3.85 (29年度)	4.00	文化観光局
2	市内の景観に関する満足度	—※2	—※2	都市整備局

※1 文化芸術創造都市施策の浸透度を測る指標として、本市に対し市民が持つイメージを数値化したもの(最高値6P～最低値0P)

※2 市内の景観に関する満足度調査の結果に基づき、平成30年5月に目標値を設定し、直近の現状値及び目標値を原案策定時に掲載します。

## ◆主な施策(事業)

<b>1</b>	<b>【新規】新たな劇場整備の事業化検討・事業推進</b>	所管	政策局、文化観光局 都市整備局
本格的な舞台芸術に対応した劇場について、その内容や整備手法、運営方法などについて、民間の力の活用や既存施設との相乗効果も考慮しながら検討を進めます。			
想定 事業量	整備に向けた事業化検討・事業推進 【直近の現状値】29年度：—	計画上の 見込額	—※
※計画上の見込み額は、事業手法などの調査結果を踏まえて決定するため、記載していません。			
<b>2</b>	<b>創造性をいかしたまちづくり</b>	所管	文化観光局、 都市整備局
関内・関外をはじめとする都心臨海部の歴史的建造物や公共空間(道路・公園・水辺)等を活用し、アーティスト・クリエイターが創造性を発揮することにより、まちの賑わいづくりを進めます。また、様々なビジネスと創造性をかけあわせ、新たなビジネス機会の創出を図ります。創造界隈拠点では、これらの活動を先駆的に進めます。			
想定 事業量	創造界隈拠点の運営 【直近の現状値】29年度：創造界隈拠点の運営	計画上の 見込額	22億円
<b>3</b>	<b>市民の文化芸術活動の環境整備</b>	所管	文化観光局、区
文化芸術の創造性をいかして、コミュニティを活性化し、教育、福祉、子育て、環境など様々な地域課題の解決に取り組む活動を支援します。地域文化芸術活動の拠点となる区民文化センターについては、未整備区を対象として検討を進め、再開発等のまちづくりの機会に合わせて、区内の文化施設や公会堂等の公共施設の機能を踏まえ、区の特性に合わせて必要な機能を整備します。また、文化施設の大規模改修を計画的に進めていきます。			
想定 事業量	①区民文化センター整備の推進 ②横浜美術館・横浜みなとみらいホールの大規模改修 【直近の現状値】29年度：①事業中3区 ②基本計画等	計画上の 見込額	96億円
<b>4</b>	<b>横浜らしい特色のある文化芸術の国内外への発信</b>	所管	文化観光局、区
横浜トリエンナーレやダンス・音楽の横浜芸術アクション事業といった横浜らしい特色のある芸術フェスティバルの開催を通じて、横浜の魅力を国内外へ発信します。また、アーティスト・イン・レジデンス※による世界のアート関係者との交流や、東アジア文化都市ネットワークでの交流を通じて、横浜のプレゼンスを高めます。			
想定 事業量	横浜らしい特色のある芸術フェスティバルの開催 【直近の現状値】29年度：ヨコハマトリエンナーレ 2017 開催	計画上の 見込額	21億円
※アーティスト・イン・レジデンス：アーティストの滞在型創作活動			
<b>5</b>	<b>文化芸術を通じた社会包摂※と次世代育成</b>	所管	文化観光局、健康福祉局 教育委員会事務局
ヨコハマ・パラトリエンナーレなど文化芸術を通じた社会包摂の取組により、障害・性別・国籍等の様々な違いを超えて、誰もが対等な関係で関わり合える社会を目指します。また、子どもたちの感性や創造性を育むために優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、才能豊かな新進アーティストなど次世代を担う人材を育成します。			
想定 事業量	ヨコハマ・パラトリエンナーレの開催 【直近の現状値】29年度：ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 開催	計画上の 見込額	7億円
※社会包摂：障害・性別・国籍等の様々な違いを超えて、誰もが対等な関係で関わり合える社会を目指すという理念			
<b>6</b>	<b>都市デザインによる魅力あふれる都市空間の形成</b>	所管	都市整備局
魅力と個性ある都市空間の形成を図るため、良好な景観形成に向けた屋外広告物・景観制度の普及・活用や、歴史的建造物をいかした個性と魅力あるまちづくりを推進するとともに、新市庁舎等のまちの顔となる施設や、日本大通りなどの公共空間等において、美しい街並み・賑わい等を生み出すデザインの総合調整等を行います。			
想定 事業量	①景観ビジョンによる施策の推進 ②魅力ある景観をつくる屋外広告物「横浜サイン」の普及啓発活動 8回(4か年) ③歴史をいかしたまちづくりの推進 【直近の現状値】29年度：①改定中 ②2回/年 ③推進	計画上の 見込額	6億円
<b>7</b>	<b>【新規】歴史文化をいかした個性と魅力あるまちづくり</b>	所管	教育委員会事務局、 都市整備局、文化観光局
横浜の歴史文化を保存・活用し、広く市民の理解を得ながら、個性と魅力あるまちづくりを推進し、地域の資源としてまちの活性化につなげるため、横浜らしい歴史文化に関わる基本的な構想等を策定します。			
想定 事業量	歴史文化基本構想の策定 【直近の現状値】29年度：未策定	計画上の 見込額	1億円

## ■文化芸術創造都市施策の浸透度(中期計画(素案)指標)

回答者		横浜市民		東京都民		神戸市民	
対象都市		横浜		東京		神戸	
1 創造性を生かしたまちづくり	①歴史的な建物や公園・水辺等が、文化芸術・にぎわいの場としても活用されている。	4.05	3.91	3.98	3.83	4.01	3.97
	②アートやデザインを生かしたまちづくりが行われている。	3.76		3.68		3.93	
2 文化的に豊かな市民生活の実現	③美術館や音楽ホールなど、質の高い文化芸術を鑑賞できる文化施設が充実している。	4.01	3.88	4.27	4.07	3.85	3.78
	④身近な地域において、気軽に文化芸術活動に参加できる機会・場が充実している。	3.75		3.86		3.71	
3 プレゼンス向上	⑤アートやダンス、音楽など、国内有数の文化芸術イベントが開催されている。	4.05	3.99	4.25	4.15	3.74	3.84
	⑥文化芸術を通じて、海外の都市などと積極的に交流している。	3.93		4.06		3.94	
4 クリエイティブ・インクルージョン	⑦高齢の方や障害のある方も美術館や音楽ホールなどを利用しやすいように配慮されている。	3.66	3.70	3.69	3.75	3.56	3.66
	⑧障害の有無や国籍の違いに関わらず、文化芸術イベントを楽しめる工夫がされている。	3.73		3.81		3.76	
5 クリエイティブ・チルドレン	⑨子どもたちが、学校や市内の文化施設で質の高い文化芸術に触れる機会がある。	3.68	3.78	3.81	3.98	3.71	3.71
	⑩アートやダンス、音楽など、様々なジャンルで若手が活躍する機会がある。	3.88		4.16		3.72	
<b>5項目(1~5)合計の平均</b>		<b>3.85</b>		<b>3.96</b>		<b>3.79</b>	

